

精神分析の再発見？

現代社会における、そして心理臨床/精神科臨床における意義

2026. **9.27** SUN

4,000円（非会員）／ 3,000円（会員）

収益は子どもたちへの心理療法支援に使われます

START 15:00 - 18:00

20世紀後半、精神分析は精神科臨床や心理臨床において主導的な役割を果たし、思想や文化にも大きな影響を与えてきました。しかし21世紀に入ると、科学的信憑性や治療の有効性への疑問、さらにフェミニズムやポストモダニズムからの批判を背景に、その地位は低下し、周縁的な位置へと移りつつあります。

この傾向は欧米でも見られますが、日本では特に、実践が社会に十分根付かず、理論中心の輸入学問として受容されてきた点に特徴があります。

本シンポジウムでは、平井正三氏と松本卓也氏の話題提供、ガヴィニオ重利子氏の討論を通じて、精神分析が現代において再び意義を持ちうるのかを、参加者とともに考えます。

講師

司会： 小笠原貴史氏（サポチル・セラピスト養成コース委員）
吉岡彩子氏（サポチル・観察と臨床基礎コース委員）

話題提供

松本 卓也 氏

京都大学大学院人間・環境学研究科准教授。ラカン派精神分析を軸に現代社会思想に切り込む試みを展開。『人はみな妄想する』（青土社）、『斜め論』（筑摩書房）、『ジャック・ラカン』（岩波書店）など。

話題提供

平井 正三 氏

サポチル訓練コース セラピスト養成コース長。ポスト・クライン派精神分析の臨床実践・研究を展開。『意識性の臨床科学としての精神分析』（金剛出版）、『精神分析の再発見』（岩崎美術出版社）など。

指定討論

ガヴィニオ 重利子 氏

ジュネーブにて個人開業。サポチル専門会員。アナ・フロイトセンター認定、児童期・思春期を対象としたMBTプラクティショナー・スーパーバイザー。英国UCL心理学・言語科学部門博士課程在籍。『学校臨床に役立つ精神分析』（分担執筆、誠信書房）など。

プログラム

15:00-16:20 話題提供
16:30-16:50 指定討論
16:50-18:00 全体討議

お申込み

下記のフォームまたはQRコードよりお申し込みください。
<https://forms.gle/rugnc2uvFCaMsWiEA>
申込締切：9月20日



認定NPO法人子どもの心理療法支援会（サポチル）について……

2005年設立。精神分析的な心理療法に関する研究及び普及活動を行うとともに、子ども及びその養育者に対して精神分析的な心理療法の支援に関する事業を行い、子どもの健やかな成長を促進することで、次世代の健全な社会づくりに寄与することを目的として活動しています。

